

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473600649
法人名	株式会社 ライフコミュニケーション
事業所名	ライフコミュニケーション泉
訪問調査日	平成20年3月25日
評価確定日	平成20年5月19日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年5月27日

【評価実施概要】

事業所番号	1473600649		
法人名	株式会社 ライフコミュニケーション		
事業所名	ライフコミュニケーション泉		
所在地 (電話番号)	神奈川県横浜市泉区和泉町3285-3 (電話) 045-800-6090		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成20年3月25日	評価確定日	平成20年5月19日

【情報提供票より】(20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13人	常勤	10人, 非常勤 3人, 常勤換算 9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	83,000 円	
敷金	有(300,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(2,700,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	5 名		
要介護5	5 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.2 歳	最低	69 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西横浜国際総合病院・コンフォート北鎌倉台クリニック・岩本歯科医院
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームは、相鉄いずみ野線いずみ中央駅から徒歩10分の緑に囲まれた住宅地に立地している。近くに同法人の有料老人ホームがあり、緊急時の応援体制が出来ているので安心である。
介護長をはじめ職員は理念を良く理解し、日々の実践に活かしている。利用者に対する言葉使いなどにも細かい配慮がされている。
家族懇親会や運営推進会議、外部評価など第三者の声に耳を傾け、運営面や日々の記録方法などを改善し、サービスの質の確保に活かそうとしている。
地域と積極的にかかわり、カレーパーティや敬老会、合唱発表会などに地域の人を招待している。また、3階部分を利用して、介護教室を開催したり、地域の会合等に場所を提供している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果を踏まえ、改善に向けた具体案の検討や実践につなげるための話し合いをしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護長は、評価の意義や目的について全職員に周知し、自己評価に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、7事業所合同で3ヶ月に1回開催している。メンバーは法人事務局・介護長・計画作成担当者・民生委員・行政職員・家族等・地域包括支援センター職員である。全体会議後、各事業所ごとに分かれ情報交換をしている。ボランティアの受け入れ方法や郷土の情報(どんど焼き・凧揚げなど)、事業所の行事等を自治会の回覧板に載せることなど出席者から助言をもらっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族等が訪問しやすい雰囲気づくりに努め、訪問時などを利用して声かけをしている。また、3ヶ月に1回家族懇親会を開催し、終了後おやつや食事などの試食を行ない、家族等から意見や感想を聞いて今後の参考にしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、盆踊りやお祭りに参加している。また、地域の方を招待して、畑で収穫したジャガイモを使ってカレーパーティを開催したり、夏祭り、敬老会などを行なっている。地区センターの「ふれあいまつり」にも参加している。地域の方に畑の作業を手伝ってもらっている。社会福祉協議会からボランティアを受け入れている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム独自の理念として、「リーダーシップは入居者である。その方の個性 尊厳 生命を守り活力ある生活を支え寄り添うケアをする」を定め、職員全員が意義を理解している。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関や各階のホール、事務室などに掲示している。ミーティングや会議等折にふれ、理念を確認している。また、職員は、利用者に関わる際に理念を実践できるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、盆踊りやお祭りなどに参加している。また、地域の方を招待して、畑で収穫したジャガイモを使ってのカレーパーティを開催したり、夏祭り、敬老会などを行なっている。地区センターの「ふれあいまつり」にも参加している。地域の方に畑の作業を手伝ってもらっている。社会福祉協議会からボランティアを受け入れている。		
sannk					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	介護長は、評価の意義や目的について全職員に周知し、自己評価に取り組んでいる。また、外部評価の結果を踏まえ、改善に向けた具体案の検討や実践につなげるための話し合いをしている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、7事業所合同で3ヶ月に1回開催している。メンバーは、法人事務局・介護長・計画作成担当者・民生委員・行政職員・家族・包括支援センター職員である。全体会議後、各事業所ごとに分かれ情報交換をしている。事業所の行事等を自治会の回覧板に載せることができるなど出席者から助言をもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所の介護保険担当窓口には折りを見て訪問し、相談したり、情報を得るなど積極的に関わりをもっている。また、区の職員がホームを見学に来てくれた。介護教室の委託を受け、「音楽療法」を行なった。地域の方など13名の参加があった。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、家族等へ近況報告や健康チェック表、写真、行事案内などを送付している。 家族等の訪問が多いので、その都度話し合いをしている。また、利用者の心身の状況に変化があった時には、随時連絡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が訪問しやすい雰囲気づくりに努め、訪問時などを利用して声かけをしている。また、3ヶ月に1回家族懇親会を開催し、終了後おやつや食事などの試食を行ない家族等から意見や感想を聞いて今後の参考にしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔なじみの職員による支援を心がけている。やむを得ず退職する場合は、家族に連絡をするとともに、利用者のダメージを最小限に防ぐように、円滑に引き継ぎができる体制がある。 退職した職員には、年賀状やお便りを出し遊びに来てもらえるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を月1回行なっている。法人に教育部があり、研修の場を設けている。また、外部研修は介護長が随時職員に声をかけて受講できるようにしている。受講後は、報告会を設け全職員が情報を共有している。報告書はファイルし、いつでも閲覧できるようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	神奈川県や横浜市のグループホーム協会に加入し、研修会などで他の事業所と交流し情報交換をしている。 法人系列のグループホームと相互見学等を行ない、情報の共有、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービスの利用を開始する際は、介護長と計画作成担当者が希望者宅を訪問したり、希望者にホームを見学してもらっている。家族等と連携しながら出来るだけ不安を取り除くよう努め、声かけや散歩などにより徐々に環境に馴染めるように支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は尊敬の念をもって利用者に接し、言葉使いにも配慮している。利用者一人ひとりの状態をよく観察して、本人に合わせて支援している。日々の生活の中で調理の仕方、掃除、花の名前、配膳や下膳などを職員が利用者から教わる場面を多く持てるよう支援している。なるべく利用者の残存能力を上手に活かせるよう支援している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントにより趣味や生活歴、家族等の意向や希望を把握している。日々のかかわりの中で声かけなどにより利用者の希望を把握するように努めている。利用者ができないと決めつけず、本人が好きな事ができるような支援を心がけている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員は利用者ごとの担当制になっている。利用者の暮らし方の希望などを本人や家族等から聴いたり、日々の支援の中での気づきをこまめに記録して、介護計画に反映している。また、カンファレンスでは、全職員の意見を取り入れて話し合いが行なわれている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎に介護計画を見直している。介護計画と日々の記録とを連携させて、利用者の望むことや必要なことを把握してプランに反映させている。 状態に変化が生じた場合は、その都度見直しをしている。いずれの場合も利用者・家族等の意見も十分に取り入れて見直しを行なっている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族等の状況に応じて、通院や外出の送迎など必要な支援を柔軟に行なっている。 3階部分が空いているので、地域の方に会議等に利用してもらっている。また、時々近隣の方をお茶に誘っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診方法は、入居時に打ち合わせをしている。入居以前からのかかりつけ医療機関に受診している利用者もいる。 協力医療機関は、毎週火曜日に訪問診療、毎週水曜日には訪問歯科がある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	基本的には、ターミナルケアはしない方針であるが、重度になっても医療行為が必要でないことを前提に、家族等や医師との話し合いで可能な限り支援することも可能である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する書類は、鍵のかかる場所に保管している。 職員には会議等で利用者のプライバシーを損なわない対応について周知し徹底している。職員は、利用者一人ひとりのプライドを尊重した言葉遣いをしている。訪問調査時に居室を見学した折には、介護長は利用者一人ひとりに入室の可否を確認してから中に案内してくれた。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のスケジュールは決まっているが、それに拘らず、利用者一人ひとりのペースに合わせて柔軟に対応している。常に利用者に対して敬意と真心を持って、寄り添うケアを実践している。踊りの先生だった方に、三味線や鼓を用意したこともある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者と相談しながら決めている。職員と利用者が同じテーブルで楽しく会話をしながら食事をしている。また、介助が必要な方にはその人のペースに合わせて少しでも自分で食べられるように支援している。献立は、品数・バランス・量・彩りや季節感を考慮し作られている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日実施するように心がけている。入浴しながらない人はいないが、体調などによりシャワーで済ませることもある。昔ながらの風習を取り入れ、柚子湯や菖蒲湯など入浴を楽しんでもらうよう工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるように出来ること(配膳の手伝い、お絞りたたみ・ベッドメイキングなど)をお願いし、感謝の言葉を伝えている。お誕生日会やクリスマス会、敬老会などを開催したり、発表会を開き、お揃いの衣装を着て皆で合唱したり、職員のギター演奏やカラオケを楽しんでいる。また、毎日のラジオ体操には皆が参加している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の状況を考慮しながら、散歩に出かけている。また、玄関脇のベンチや中庭のテラスなどで日光浴ができる。 ドライブで近くの牧場に行ったり、買い物に出かけたり、家庭菜園の畑まで様子を見に行くなど、なるべく外に出るよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はオートロックになっているが、ユニットの入口は施錠していない。ドアに鈴を付けているほか、職員同士で協力し、利用者の行動パターンを把握して見守りを実践している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に自主訓練をしている。また、消防署の指導も受けている。夜間緊急時マニュアルがあり、近くにある同一法人の有料老人ホームとの連携が出来ているので安心である。 災害時に備えて非常用食糧や備品、水などを備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事は個別記録に記載されている。職員は、「高齢者のカロリー量と塩分の管理について」の勉強会を行なうなど食についての意識が高い。夕食は、献立付きの食材を業者に委託し、1食のカロリーを把握してそれを参考に朝と昼のメニューを考慮し、バランスの良い食生活が出来るように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所は対面式になっているのでリビングを見渡す事ができる。食器棚もローカウンターに収納され圧迫感はない。廊下には、小さな椅子とテーブルがあり、家族等や職員・仲間同士で過ごす事ができるようになっている。リビングは、生け花が随所に活かされている。また、壁には普通の暮らしぶりの写真や絵画が飾られている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、それぞれの利用者の馴染みの物(たんす・仏壇・テレビ・椅子・家族の写真など)が置かれ、居心地よく暮らせるように配慮されている。 居室の入口には本人の好きなもの(車のポスターなど)や写真を飾り、部屋を間違わないように工夫している。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ライフコミュニケーション 泉
(ユニット名)	泉 1
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市
記入者名 (管理者)	植木 清美
記入日	平成20 年 2月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念を掲げ、理念に基づきケアを行えるよう心がけている。 理念として、入居者様の一人一人の個性や尊厳が守られるように、そして寄り添うケアを行うように作っている。		運営理念を朝礼で唱和している。 玄関・ホール・スタッフルーム・事務所などに掲示し、意識するようにしている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の内容を把握し、ケアを行っている。 新任研修の際、理念について伝えるようにしている。		常に意識し理念の実現に向けてケアができるよう取り組んでいきたい。 また、時々、内部研修などで、再認識するよう研修内容に盛り込んで行くようにしていきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族懇談会や運営推進委員会などで、お伝えする機会を設けている。 地域の方には、昨年運営推進会議や介護教室などの開催にて、少しずつ、理解して頂いている。		理念に基づき支援できるよう心がけたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	夏祭りや、カレーパーティーなどの行事の際は、近隣の方に声掛けをして来て頂くようにしている。また、家庭菜園で収穫した野菜などをお持ちしている。回覧板を回す時も、ご挨拶を欠かさないように心掛けている。		近隣の方にお会いした時は、挨拶はもちろんの事だが、年に2回は、ご挨拶に意識的に伺ってご挨拶している。 また、現在3階フロアが空いている為、近隣の方に活用して頂けるように、近隣に声掛けし、民生委員の研修などにも利用していただいている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、行事などに参加させて頂いている。 (盆踊り大会、おみこしを見学するなど)		地域活動については、入居者様の身体的機能の低下に伴い、一緒に参加する事が難しい事もあるが、できるだけ地域活動に参加し、接点をもつように心掛けていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護教室の開催。また、運営推進委員会議の実施などにより、お伝えしていく場が増えていると思われる。		民生委員の研修に出席し啓発に取り組んでいるが、もっと機会があれば出席したいと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議などで外部評価の実施について、話し合いの場を持ち自己評価についても、共通の認識をもつように取り組んでいる。		改善点の見直しを課題に、今後も、向上していくように職員全員が取り組んで行くよう努めていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3ヶ月に1回の割合で開催しており、状況報告している。会議では地域住民代表の方に、アドバイスを頂いたりすることもあり、ケアサービスに取り入る事も可能になった。		運営推進会議が発足してから外部評価が行われていない為、評価の結果を会議等で報告していないが、外部評価の終了後は、会議にて報告しアドバイスを頂き、より良いケアサービスに取り組んでいきたいと思っている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の発足をきっかけに、市町村担当者と接する機会が増え、疑問点などわからない事は、気軽にお伺いするようになり身近に感じるようになった。また、市町村担当者も見学に来て頂いたり、介護教室のアドバイスなども頂いている。		直接窓口に、伺うこともありますが、電話やメールでも必要に応じ行っている。市町村の窓口に行くようになり、市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいるという実感が持てるようになったが、今後も質の向上を目指して、頑張りたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、制度についての研修は出来るだけ出席しているが、職員も交代で出席している。また、持ち帰って報告会を行い、情報を共有している。必要に応じ活用はしたいと思うが、今のところあまり、該当者がいない。過去には、相談に応じ活用したケースもある。		現在、必要とされている方はいないが、必要であれば情報を提供していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人でも力をいれ研修をしているが、全体研修で職員が全員高齢者虐待防止について理解できるように、行っている。研修の中でも重要なことであり、虐待などあってはならない事と職員が意識するよう努めている。		虐待行為のないよう、周知徹底していく。また、虐待には、言葉によるものも含まれることを認識し言葉使い、マナーについてしっかりと学ぼうと研修に取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前には必ず、重要事項説明書を読み説明している。また、理解、納得されるように説明を行っているが、必要に応じ疑問点などその都度行っている。説明の後に、何かわからないことがありますか？と聞くように心掛けている。</p>	<p>必要に応じ、その都度、対応させて頂いていますが、不安や疑問がないよう対応していきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者様が必要としている物や要望、不満などをお聞き出来るように、職員を居室の担当として決めて対応している。いつでも、自分の気持ちが、気軽に言えるように配慮している。</p>	<p>要望・意向に沿えるよう取り組んでいきたい。クレーム対策委員会があり、毎月会議を開催している。実際クレームが、現在のところないが、事例検討として研修をかねて行っている。ファイルもある。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に行っているが、状況に応じ、連絡している。来設時にはご様子・近況の報告をしている。受診時の連絡などお電話にて報告している。</p>	<p>写真やBP表をお送りして、近況報告している。体調不良時などは、必ず連絡をいれ受診する事を、確認してから受診し、その後の連絡も入れるようにしているが、ご家族と共有できるよう、入居者様の状況把握に努めていきたいと思っている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期的な家族懇談会を行っている。御家族をお呼びしてイベントを定期的に行っている。玄関に投書箱が設置してある。その都度、ご要望があれば、お受けしている。</p>	<p>家族懇談会などで、自由に意見を言っていただくように配慮している。懇談会の中で、ご家族様それぞれに、意見やイベントなどの感想を言って下さる為、参考になっており、次回につなげることが出来る。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体会議やニュット会議を持ち話し合いの機会を持つようにしている。また、介護長会議の報告を行うようにしている。</p>	<p>頻繁に会議を持つようにして、職員の意見が反映出来るようにしていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員の配置に関しても、確保出来ていると思う。職員が数名おり、近隣からきている為、状況に応じて出勤が可能。夜勤者も、夜勤専門ではなく、馴染みの職員である為安心できる。また、職員も男性、女性、年齢差もあり、家族的な雰囲気勤務にあたっており、勤務の調整も可能である。</p>	<p>ユニット内で調整して対応しているが、兼務の非常勤職員がいるため、必要に応じ勤務して頂いている。今後も無理のないように、柔軟に対応できるような体制をとって行きたいと思っている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>人事異動は比較的少ない。法人は、グループホームの運営について理解を示しており、職員の異動に関しても、管理者の意見を聞いて対応している。代わる場合でも、最小限度に抑え、必ずご家族には報告させて頂くようにしている。</p>	<p>異動により、入居者様やご家族様との信頼関係が希薄にならないように、配慮すると共に今後も馴染みの関係を構築していけるように、努力していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人は、教育部を持っており研修する場を設けている。介護長研修、主任研修などがあり、研修には力を入れている。</p> <p>また、感染症対策などの研修もあり研修内容は、豊富であると思う。</p>	<p>常勤、非常勤に係わらず、研修や会議に出席するようにしている。また、外部の研修に出席した場合は、報告会を設け情報を共有している。今後は、もっと職員の段階に応じた研修を行うよう法人と協力していきたい。</p> <p>例えば勤続5年以上を対象に中堅研修など。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>横浜市や神奈川県グループホーム協会に入会しており、協会の主催する研修などに参加し、情報交換や交流を深めている。</p>	<p>他のグループホームの職員と交流の場を設け、積極的に自分の職場だけでなく、視野を広げるようにしていきたい。</p> <p>また、サービスの質の向上を目指すよう取り組んでいきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>親睦会を定期的に行い、(3ヶ月に1回)カラオケなどで発散できるようにしている。また、食事会についても、イベントの打ち上げなどを兼ねて行っている。</p>	<p>定期的に行っているが、継続していきたい。</p> <p>職員には好評である。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の個性や、得て不得手を理解し、得意な分野を生かすようにしている。</p>	<p>イベントなど得意な分野を発揮出来る様な機会を作っている。</p> <p>職員の健康管理については、健康診断を定期的に行っている。</p> <p>勤務条件に関しても、就業規則に沿って守られている。</p>
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>傾聴した対応に努め、声かけや会話する時間を多く設けるようにし、コミュニケーションを図るよう心がけている。</p>	<p>御家族より情報収集し、早期把握に努め、スタッフ間の情報の共有に努めている。</p> <p>状態を把握し、状況にあった対応ができるように支援していくように努める。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前のご相談については、ゆっくりとお話を伺う時間を取るように心掛けている。</p> <p>また、入居されてからも、生活の様子などを連絡しご家族様との信頼関係を築いている。</p> <p>ご家族様から、ご相談があった場合は、時間を作り、お受けするようになっている。</p>	<p>信頼関係の構築に努めていく。</p> <p>お話を聞く時間、態度などには充分配慮し、受け止める姿勢をもち、安心して相談ができるような体制をとっていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている支援を把握し、優先順位や適切な対応が行えるように心がけている。 まずはお聞きすることが重要と思っている。その後の対応は必要に応じ、他のサービス機関につなげている。		早期対応を心掛け、状況に応じた適切な支援を行うように努める。 また、相談者のニーズを的確に捉え、対応出来る様取り組んでいきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族様やご本人の意思尊重しながら、少しずつ雰囲気にならざるを得ないよう、必要に応じ声掛けをしたり、今までの生活歴などを把握し、一気に全てを変えるのではなく安心して生活出来る様に、工夫している。		ご家族・ご本人の意向や要望を伺い尊重した個別のケアを行えるよう工夫し支援していきたい。
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個性を尊重し、得意な分野を引き出し活かせるように心がけている。 共に共感し、信頼関係を築くように心がけている。 家庭的な雰囲気作りや快適に過ごせるような環境作りを心がけている。		個性・尊厳を尊重し、一緒に過ごしていく中で信頼関係を構築し寄り添えるケアができるよう支援していきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	意向や要望を伺い、相談しながら共に考え、支援するよう心掛けている。		共感し合い、共に支えていけるように支援していきたい。 信頼関係の構築に努めていく。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会・外出・外泊・通院など優遇している。 御家族が多く参加して頂ける機会を設けられるよに心がけている。		イベントや家族懇談会など御家族が参加して頂ける機会を設けるようにしている。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	郵送にて贈物など頂いた時にお礼のお電話やお手紙などの連絡を取りつぐお手伝いを心がけている。		途切れないような配慮を継続していけるよう努める。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	周りとの関わりを持てるよう役割分担に配慮し、共同生活ができるように努めている。		入居者同士の関り方を把握し、スタッフが間に加わるなど、関り合いを支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	系列に移動された場合には、面会に伺うようにしている。ご様子や状況などを伺うようにしている。		年賀状をお出ししたりしている。御家族に連絡し状況を伺ったり、入院されている場合は、お見舞いに行くように心がけている。
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向や要望に沿えるように支援しているが、困難な方には汲み取るよう努めている。		困難な場合は、御家族を通し伺うようにしています。その方の表情などから汲み取れるように心がけている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族との話しの中からも情報を得るようにしている。生活歴や個人を尊重するように努め、状態にあったサービスができるように心がけている。		なるべく多くの情報収集に心がけ、その方らしい生活が送れるように支援していきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人を尊重し生活のパターンやリズムを崩さないよう努めている。残存機能を活かすようにし、できることとできないことを把握しできることの持続できるようにしている。		身体状態や総合的に把握できるように努めていきたい。より多くのできることを見つけ継続できるように心がけていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファランスを行い、状況に応じて行っている。専門職と情報を共有し相談・指示を受け、ご家族とも話し合いを持ち介護計画を作成するようにしている。		専門職・ご家族と情報の提供を行い、意見交換や話し合いなどを行うことにより、反映された介護計画の作成に心がけていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに面談を行い見直しをしているが、退院時や状況の変化によってもカンファランスを開き見直しを行っている。専門職と情報を共有し相談・指示を受け、ご家族とも話し合いを持ち状況に合った介護計画を作成するように心がけている。		現状に応じて見直しを行っている。専門職・ご家族と情報の提供を行い、意見交換や話し合いなどを行うことにより、反映された介護計画の作成に心がけていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝礼にて申し送りを行っている。 個人記録・業務日報に、様子や気づいたことを記入し情報を共有するようにし介護計画の作成の見直しやケアに反映できるように心がけている。		日々の変化や気づいたことを記入し、情報を共有しながらケア見直し・介護記録の作成に活かせるようにしていきたい。 情報の共有・申し送りなど周知徹底していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者様やご家族様のニーズに応じて訪問診療や訪問歯科診療、ビューティーヘルパーなど利用している。		要望に応じて柔軟に対応出来る様にしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進委員会のメンバーに民生委員の方がおり、家庭菜園などのボランティアも兼ねて、色々とアドバイスを頂いている。 家庭菜園のじゃがいも植えなど、肥料についても教えていただいている。		消防訓練なども行っている。 地域資源の活用を今後も、多く取り入れていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センターの主任ケアマネージャーにアドバイスを頂いたり、必要に応じ連携を取りながら、対応している。		必要に応じ、他のサービス業者への連絡などを行なって行くように努める。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターなど、必要に応じ連絡を密にして行くように思ってる。 推進会議にて、オブザーバーとして地域包括支援センターの主任ケアマネージャーと協働している。		今後も、長期的に協働出来る様にしていきたい。 民生委員の方の協力も頂き、多面に渡り関わりを持っているが、これからもお願いしていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院などがあるが、本人の希望やご家族様の希望をお聞きして、受診先を決めている。		昔からのかかりつけの病院など優先しています。 これからも、ニーズに応えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門の先生に診て頂いている。医師との関係についても、入居者様や職員も相談しやすく、良い関係を保持している。		専門の医師の確保については出来ている。また、訪問診療の医師も相談しやすく入居者様の状態を把握している。長期にわたり信頼関係を、保持していきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員は現在、常駐していないが法人内に勤務している為、相談などがいつでも可能である。		健康管理については、必要に応じて今後も相談していきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	退院に向けての取り組みは、退院計画書など病院からの計画書を元に、ご家族様と相談しながら、早期退院に向けて取り組んでいる。また、出来るだけ入院している期間を短くし、認知症が進まないように対応したいと思っている。		早期退院に向けて今後も、積極的に取り組んでいきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末のケアについては、ご家族様と面談するようにしているが、主治医も入って頂いて、面談するようにしている。その結果、職員にも伝え情報を共有するよう努めている。		職員間でケースカンファランスを開催し、情報を共有するように努めてはいるが、日頃からご家族様と信頼関係を持ち、繰り返し話し合っていく必要があると思われる。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医の指示の元、ご家族様と終末についてご相談し、意向をお聞きして可能な範囲内で対応している。現在のところ、看護師がいない為、常に何か変化があれば、ご家族様に連絡し受診して対応している。		終末期のケアについては、今後の課題でもあると思うが、現在のところ、出来る限り、主治医と相談し指示のもとケアを行なっている。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	なじみの物や使われていた物を持って来て頂いている。以前の暮らしを保つように心がけている。移動時には、細かい申し送りを行い継続できるように努めている。		御家族よりプライバシーに配慮しつつ情報を収集している。以前の暮らしを継続していけるように配慮していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>自尊心を傷つけないような声かけや対応ができるように心がけています。</p> <p>プライバシーの保護や個人情報の取り扱いに注意しています。</p>	<p>受容に努め、個人の尊厳の保持に努めていきたい。</p> <p>保守義務の厳守につとめていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>意向や要望を表しやすい状況作りや、わかりやすい説明をするようにし自己決定を促すよう心がけています。</p>	<p>ひとりひとりを大切にケアができるように努め、快適に過ごして頂けるような環境作りをしていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ひとりひとりのペースに合わせ、その日の体調や状況に応じて、ケアするように心がけています。</p>	<p>入居者様を第一に優先的に考え、個人を尊重したケアを行っていただけるように心がけていきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>月2回、ビューティーヘルパーに来てもらいご本人の意向を伺うようにしています。</p> <p>整容や身だしなみには気をつけ、なるべくご自分でできる所は行って頂けるように促し支援するように心がけています。</p>	<p>介助の方のいますが、整容・身だしなみには、常に配慮していきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>一緒に献立を作るようにし、食事を楽しんで頂けるように心がけています。</p> <p>見守りしながら配膳をしたり、テーブルを拭いて頂いたりしています。</p>	<p>旬の物や季節感のある献立を作り、楽しみながら召し上がって頂けるように心がけていきたい。</p> <p>食べやすくする工夫も考えるようにしています。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>なるべく、お好みのお品をお出しするようにしています。</p>	<p>御家族にもお好きなものをお聞きしてお出しするようにしています。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンを把握するように努めている。(特に排便など) 定期的に排泄介助を行っているが、状況を見て随時、行っている。不衛生にならないように配慮するように心がけています。		自尊心を傷つけないような声かけ・誘導ができるように配慮していきたい。 皮膚疾患に注意していく。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴できるような体制をとっている。拒否のある方には、声掛けの仕方の工夫や時間をずらしたりして入浴して頂いている		昔ながらの季節の風習を楽しんで頂いています。(ゆず湯や菖蒲湯など) 身体の状態を把握するように心がけています。(皮膚の状態・爪など)
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ひとりひとりの生活のリズムを大事にするよう心がけています。睡眠については、状況によっては、家族・医師に相談し薬剤の調整を考慮している。		体調によっては、臥床して頂きますが、基本的には、皆様と一緒に過ごして頂いています。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割や楽しみを持ち生活の張りを持てるように努めている。レクリエーションやイベントなど楽しんで頂けるようにしている。 家庭菜園の野菜などを時々、見に行き収穫を楽しみにしている。		家庭菜園をおこなっており、収穫している。また、収穫したものでご家族様、近隣の方をお招きしてカレー・パーティーなど行いイベントで楽しんでいる。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、事故防止のため、法人で立替するということが、決められているが、外出した際お金のお支払いなど職員と一緒にするなど支援している。		現金などを使用する機会が少なくても、会話の中でお金のことを忘れないような工夫をしていきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏祭りや近隣の牧場に買い物に行ったり、食事やおやつを食べにでかけている。		外出する機会を多く設けるようにしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご自宅に外泊したい要望があり、ご家族様と相談の上対応させて頂いたケースもあり、要望があれば対応している。		行ってみたい場所の要望が現在は少ないが、あれば対応していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お電話をしたいと希望があった場合などは対応している。また、お手紙が来た時は、お渡しして、届いたお礼のお電話などの支援をしている。		ご家族様と入居者様の手紙のやりとりやお電話でお話する機会をもっと多く持てるように支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会に来られるよう時間制限をしていない。ゆっくり過ごせるよう配慮している。		ご家族様や知人の方もたくさん訪問にきて頂いている。一緒にお茶などを召し上がって、ゆっくりと談話できるように心掛けている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人でも身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束廃止については、力を入れて取り組んでいる。また、内部研修にても再確認し、拘束のないケアに取り組んでいる。		職員は、拘束0を目指す事を意識するように、日頃から取り組んでいると思う。また、どうしても必要な場合が生じた時は、ケースカンファランスを開催し、検討するように心掛けていきたい。現在は、対象者はいらっしやらない。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない工夫は行っている。玄関に鈴をつけ、出入りには注意している。鈴をつけるなどの工夫については、職員間で鈴の音もどのような物にするか、検討してつけている。		外玄関のみオートロック式になっているが、その他の部分には鍵はかかっている。見守りを強化し、事故防止に努めるよう取り組んでいきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安全確認表を作成し、1時間ごとにチェックしているが、チェック表のみに頼らず見守りを強化して、利用者様の安全確認を行なっている。		日中は、出来るだけリビングに来て頂きコミュニケーションをとるようにしており、利用者様の様子がわかるように配慮しているが、今後も利用者様の安全面を注意していきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険性のある物品に関しては、管理方法を決めてはいる。時間帯にもよるが、職員が近くにいる場合などは必ずしも、鍵をかけるという事はしていない。但し、基本的には、危険性のある物は、鍵をかけて保管する事にしている。		入居者様の状況に応じた管理方法について、具体的に1つ1つ、検討していきたいと思うが、何でもかんでも全てが危険だとは思っていない。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっとを活用している。法人でも事故防止には力を入れて取り組んでいるものの1つ。職員も出来るだけ、ひやりはっとを提出し、毎月分析している。		安全対策委員会を設けて、取り組んでいる。ひやりはっと報告書は、職員が共有できるように、目を通して捺印するようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法など消防署にて研修があった場合、出席している。内部研修にて報告して、情報の共有に努めている。また、体調不良時の対応マニュアルがあり、参考にしている。		夜間帯の救急対応については、マニュアルがあり夜間緊急受診した場合も、サポート要員が対応するため、安心して、受診に付き添うことができる。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常用の食料、備品は常備している。消火器、避難路についても定期的に設備点検している。非難訓練も自主訓練を行っている。		地域との非難訓練などは、今年の下期位から、自治会と一緒に取り組んでいく予定になっている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランの面談時などにお話させて頂いたり、お電話などでも、必要に応じてご連絡させて頂いている。		ご家族様と連絡を密にして、リスクを最小限に止められるようにしていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化の早期発見のため、1日2回のバイタル測定を行っている。また、数値のみに頼らず、日頃より様子観察を行い、少しでも気が付いた際には、他職員に報告し情報を共有すると共に、ご家族への連絡を行うようにしている。受診が必要な場合、速やかに対応している。		入居者様の状態には常に注意して様子観察するように努めているが、入居者様の身体機能に伴い、早期発見と迅速な対応が必要と思われるため、日頃のバイタルチェックを欠かさないようにしていきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表などにて確認するようにしている。また、処方内容をファイルしており、いつでも見て確認することが可能である。		服薬に関する研修を行ったことがあるが、開催数が少ないため、定期的に、情報を共有するために、今後も開催していきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤を出来るだけ使用せず、食事やおやつなどで便秘解消出来る様にしている。毎朝、ヨーグルトやヤクルトを付けるようにしている。下剤の使用については、医師に相談し、指示のもとに行っている。また、下剤の種類についても、ご本人の状態にあわせて指示して頂いている。		身体機能の低下により、便秘になりやすく自然排便が困難になっているため、食材やメニューで工夫するようにしていきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアについては、毎食後行っている。また、義歯洗浄も行っており、歯磨きが難しい入居者様には、口腔清拭をしている。毎週、訪問歯科診療があり、医師に相談しながらケアを行っている。		清潔の保持に努めて行きたい。職員が口腔ケアの重要性を認識する為に、研修に参加し報告会を行い、情報を共有している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量などのチェック表を作成し、一人一人を把握している。また、1日の水分トータルなども、記入している。		栄養計算は業者のメニューをお願いしている為、1日1食の分は、栄養計算ができています。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルがあり、法人でも研修を行ったり、区役所主催の研修にも参加し、内部研修にて発表するなど共有している。		マニュアルに沿って実施している。また、職員が手洗い、うがいのポスターを作成し、励行している。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材については、十分に注意している。業者に発注した場合、納品時には確認している。また、食器や調理器具についても毎日チェック表を用いて消毒している。食材の賞味期限のチェックも行っている。		食器や台所、調理器具などの衛生管理には充分注意していきたい。消毒などに関しては、マニュアル化しており、今後も取り組んでいきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の周りには、季節のお花などガーデニングして、グループホームらしい生活感のある雰囲気作りをしている。		玄関周りは、明るいイメージを心がけている。玄関ドアも2枚扉になっているが、自動ドアになっているため、出入りしやすい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホットできる空間や場所をつくるように心がけている。また、場所だけでなく、観葉植物や季節の花などを飾り、落ち着いた雰囲気になるように、意識しています。また、音楽などを流し穏やかな生活ができるように工夫しています。		季節感を取り入れるように心がけている。出来るだけカレンダーなども自然の風景画などのものを飾るようにしている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの周りに、いつでも自由に座れるように、椅子とテーブル設置しており、フロアを歩きながら時々休憩出来る様に工夫している。また、喫煙場所を設けて他の利用者に配慮しているが、現在は、喫煙する方は、いらっしゃらない。		ホットできる場所の確保は絶対的に、必要と思っているグループでのコミュニケーション作りも重要ではあるが、一人での空間は精神的安定を図る為、工夫していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使い慣れたタンスや椅子など、身の回りの物で、ご本人にとって使いやすいものがあれば、持参して頂いており、ご家族の写真なども送っていただいたものなどは、居室に飾るように心掛けている。また、ベッドやお布団なども、施設では用意はしてあるが、ご自分の物を使用されている入居者様もいらっしゃる。		入居者様にとって使い慣れたもの、なじみのある物は、安らぎが得られ、安心して生活が継続されるものですので、大切な事と考えており、ご家族様とご本人の意思を尊重するよう心掛けている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は、午後2時頃に、必ず窓を開けるようにしている。時間を決めているのは、忘れないように意識する為に決めている。また、温度計を設置し、温度には注意している。湿度についても、特に冬は、乾燥に注意し湿度を60%に保持するよう、職員間で意識している。		入居者様の座る位置などは、空調の吹き出し口などの近くは出来るだけ避けてはいるが、やむを得ず、近くに座る時などは、注意して状況を把握するよう今後も努めて行きたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活ができるように、トイレなどのスペースを広くとり、手すりも上下に動くようになっている。また、お台所も、キッチンカウンターになっている為、職員と入居者様が対話をしながら、調理が出来る様になっている。不安を取り除くことができる環境であると言える。		身体機能に応じた設備や備品を整えるようにしたいと思う。また、危険なものがないように配慮していきたく。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや浴室、また居室などの表示をわかりやすく表示し混乱を出来るだけ避けるように心掛けている。		個人の能力に応じ、わかりやすく表示しているが、残存機能を充分活かし、混乱しない工夫が必要と思っている。
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭やテラスにて、夏祭りやカレーパーティーなどイベントの時に)利用したり、普段もお天気の良いときには、おやつをいただいたりしています。		今後もテラスや中庭をイベントなどに利用し、ご家族様や、近隣の方などをお招きしてコミュニケーションの場所にしていきたくと思っています。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

環境整備面では、いつも季節のお花が飾ってあり、季節感を感じられるようにしています。お花も家庭菜園で咲いたお花であったり、お花屋で購入したものなど様々ですが、自然のもので本物を取り入れていきたいと思っています。

また、家庭菜園で収穫した野菜を利用して、ご家族様や近隣の方にお声をかけ、テラスにてカレーパーティーを行なったりしております。

常に、ライフコミュニケーションがモットーとしていますのは、「ご家族様と共に楽しむ」ということです。

気軽に、いつでもご家族様が、お越し頂けるような温かいおもてなしを心掛けております。また、介護教室や運営推進会議などをきっかけに、近隣の方などが身近に感じられ、温かく見守っていただいていることを実感しています。今後も、地域の方に支えていただきながら入居者様やご家族様が安心できるグループホーム作りを目指していきたいと思っています。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ライフコミュニケーション 泉
(ユニット名)	泉 2
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市
記入者名 (管理者)	植木 清美
記入日	平成 20 年 2 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念を掲げ、理念に基づきケアを行えるよう心がけている。 理念として、入居者様の一人一人の個性や尊厳が守られるように、そして寄り添うケアを行うように作っている。		運営理念を朝礼で唱和している。 玄関・ホール・スタッフルーム・事務所などに掲示し、意識するようにしている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の内容を把握し、ケアを行っている。 新任研修の際理念について伝えるようにしている。		常に意識し理念の実現に向けてケアができるよう取り組んでいきたい。 また、時々、内部研修などで、再認識するよう研修内容に盛り込んで行くようにしていきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族懇談会や運営推進委員会などで、お伝えする機会を設けている。地域の方には、昨年運営推進会議や介護教室などの開催にて、少しずつ、理解して頂いている。		理念に基づき支援できるよう心がけたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	夏祭りや、カレーパーティーなどの行事の際は、近隣の方に声掛けをして来ていただくようにしている。また、家庭菜園で収穫した野菜などをお持ちしている。回覧板を回す時も、ご挨拶を欠かさないように心掛けている。		近隣の方にお会いした時は、挨拶はもちろんの事だが、年に2回は、ご挨拶に意識的に伺ってご挨拶している。また、現在3階フロアが空いている為、近隣の方に活用して頂けるように、近隣に声掛けし、民生委員の研修などにも利用していただいている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、行事などに参加させて頂いている。(盆踊り大会、おみこしを見学するなど)		地域活動については、入居者様の身体的機能の低下に伴い、一緒に参加する事が難しい事もあるが、できるだけ地域活動に参加し、接点をもつように心掛けていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護教室の開催。また、運営推進委員会議の実施などにより、お伝えしていく場が増えていると思われる。		民生委員の研修に出席し啓発に取り組んでいるが、もっと機会があれば出席したいと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議などで外部評価の実施について、話し合いの場を持ち自己評価についても、共通の認識をもつように取り組んでいる。		改善点の見直しを課題に、今後も、向上していくように職員全員が取り組んで行くよう努めていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3ヶ月に1回の割合で開催しており、状況報告している。会議では地域住民代表の方に、アドバイスを頂いたりすることもあり、ケアサービスに取り入る事も可能になった。		運営推進会議が発足してから外部評価が行われていない為、評価の結果を会議等で報告していないが、外部評価の終了後は、会議にて報告しアドバイスを頂き、より良いケアサービスに取り組んでいきたいと思っている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の発足をきっかけに、市町村担当者と接する機会が増え、疑問点などわからない事は、気軽にお伺いするようになり身近に感じるようになった。また、市町村担当者も見学に来て頂いたり、介護教室のアドバイスなども頂いている。		直接窓口にも、伺うこともありますが、電話やメールでも必要に応じ行っている。市町村の窓口に行くようになり、市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいるという実感が持てるようになったが、今後も質の向上を目指して、頑張りたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、制度についての研修は出来るだけ出席するようにしているが、職員も交代で出席している。また、持ち帰って報告会を行い、情報を共有している。必要に応じ活用はしたいと思うが、今のところあまり、該当者がいない。過去には、相		現在、必要とされている方はいないが、必要であれば情報を提供していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人でも力をいれ研修をしているが、全体研修で職員が全員高齢者虐待防止について理解できるように、行っている。研修の中でも重要なことであり、虐待などあってはならない事と職員が意識するよう努めている。		虐待行為のないよう、周知徹底していく。また、虐待には、言葉によるものも含まれることを認識し言葉使い、マナーについてしっかりと学ぼうと研修に取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には必ず、重要事項説明書を読み説明している。また、理解、納得されるように説明を行っているが、必要に応じ疑問点などその都度行っている。説明の後に、何かわからないことがありますか？と聞くようにしている。		必要に応じ、その都度、対応させて頂いていますが、不安や疑問がないよう対応していきたい。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様が必要としている物や要望、不満などをお聞き出来るように、職員を居室の担当として決めて対応している。いつでも、自分の気持ちが、気軽に言えるように配慮している。		要望・意向に沿えるよう取り組んでいきたい。クレーム対策委員会があり、毎月会議を開催している。実際クレームが、現在のところないが、事例検討として研修をかねて行っている。ファイルもある。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に行っているが、状況に応じ、連絡している。来設時には近況の報告をしている。受診時の連絡などお電話にて報告している。		写真やBP表をお送りして、近況報告している。体調不良時などは、必ず連絡をいれ受診する事を、確認してから受診し、その後の連絡も入れるようにしているが、ご家族と共有できるよう、入居者様の状況把握に努めて行き
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な家族懇談会を行っている。御家族をお呼びしてイベントを定期的に行っている。玄関に投書箱が設置してある。その都度、ご要望があれば、お受けしている。		家族懇談会などで、自由に意見を言っていただくように配慮している。懇談会の中で、ご家族様それぞれに、意見やイベントなどの感想を言って下さる為、参考になっており、次回につなげることが出来る。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やニュット会議を持ち話し合いをするようにしている。また、介護長会議の報告を行うようにしている。		頻繁に会議を持つようにして、職員の意見が反映出来る様にしていきたい。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の配置に関しても、確保出来ていると思う。職員が数名おり、近隣からきている為、状況に応じて出勤が可能。夜勤者も、夜勤専門ではなく、馴染みの職員である為安心できる。		ユニット内で調整して対応しているが、兼務の非常勤職員がいるため、必要に応じ勤務して頂いている。今後も無理のないように、柔軟に対応できるような体制をとって行きたいと思っている。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動は比較的少ない。法人は、グループホームの運営について理解を示しており、職員の異動に関しても、管理者の意見を聞いて対応している。代わる場合でも、最小限度に抑え、必ずご家族様には報告させていただきますようにしている。		異動により、入居者様やご家族様との信頼関係が希薄にならないように、配慮すると共に今後も馴染みの関係を構築していけるように、努力していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人は、教育部を持っており研修する場を設けている。介護長研修、主任研修などがあり、研修には力を入れている。また、感染症対策などの研修もあり研修内容は、豊富であると思う。</p>	<p>常勤、非常勤に係わらず、研修や会議に出席するようにしている。また、外部の研修に出席した場合は、報告会を設け情報を共有している。今後は、もっと職員の段階に応じた研修を行うよう法人と協力していきたい。例えば勤続5年以</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>横浜市や神奈川県グループホーム協会に入会しており、協会の主催する研修などに参加し、情報交換や交流を深めている。</p>	<p>他のグループホームの職員と交流の場を設け、積極的に自分の職場だけでなく、視野を広げるようにしていきたい。また、サービスの質の向上を目指すよう取り組んでいきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>親睦会を定期的に行い、(3ヶ月に1回)カラオケなどで発散できるようにしている。また、食事会についても、イベントの打ち上げなどを兼ねて行っている。</p>	<p>定期的に行っているが、継続していきたい。職員には好評である。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の個性や、得て不得手を理解し、得意な分野を生かすようにしている。</p>	<p>イベントなど得意な分野を発揮出来る様な機会を作っている。職員の健康管理については、健康診断を定期的に行っている。勤務条件に関しても、就業規則に沿って守られている。</p>
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>傾聴や会話する時間を多く設けるようにし、コミュニケーションを図るよう心がけている。</p>	<p>御家族より情報収集し、早期把握に努め、スタッフ間の情報の共有に努めている。状態を把握し、状況にあった対応ができるように支援していくように努める。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前のご相談については、ゆっくりとお話を伺う時間を取るように心掛けている。また、入居されてからも、生活の様子などを連絡しご家族様との信頼関係を築いている。ご家族様から、ご相談があった場合は、時間を作り、お受け</p>	<p>信頼関係の構築に努めていく。お話を聞く時間、態度などには充分配慮し、受け止める姿勢をもち、安心して相談ができるような体制をとっていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている支援を把握し、優先順位や適切な対応が行えるように心がけている。 まずはお聞きすることが重要と思っている。その後の対応は必要に応じ、他のサービス機関につなげている。		早期対応を心掛け、状況に応じた適切な支援を行うように努める。また、相談者のニーズを的確に捉え、対応出来る様 取り組んでいきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族様やご本人の意思尊重しながら、少しずつ雰囲気馴染んでいただけるように、必要に応じ声掛けをしたり、今までの生活歴などを把握し、一気に全てを変えるのではなく 安心して生活出来るように工夫している。		個別ケアを行えるよう工夫する。 ご本人が、安心して生活出来る様に、温かく見守り信頼関係を築くように心掛けている。
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者様の得意な分野などを把握し、共通の話題を楽しんで 喜びあったり、昔の事を思い出していただくように努めている。 また、生活の中で役割などがあり、喜んで取り組めるよう工夫して		ご本人の個性や、得意な分野などを充分に引き出し個々の残存能力に応じた支援を継続していきたいと思う。また、いつでも、入居者様と一緒に、寄り添って必要に応じたケアを心掛けていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の抱えてきた、苦勞や不安などを少しでも、共にできる ように、声掛けを行い、気軽に相談して頂けるような雰囲気作りを心掛けている。		ご家族様が面会に来られた際は、必ず声掛けをして、近況報告すると共に、何か気になる事ありますか？とお聞きするようしているが、これからも行なって行きたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族様と入居者様の関係については、把握している。また、 把握に一層努めることで、ご家族様との信頼関係も生まれてくると思う。		ご家族様と入居者様との関係がより良い関係に今まで以上になるように、裏方として努力したい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで係わって来られた、関係が途切れないように心掛けている。 昔の学校の友人からお電話が、時々ある方もいらっしゃるの で、お電話を取り次いだりしている。また、年賀葉書きのお手伝いをするなど、支援に努めている。		馴染みの関係や場所などが途切れないように、今後も支援していきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様の中にも、気の合う方、合わない方などがいらっしゃる と思うが、職員が把握して、毎日の生活が楽しく過ごせるように支援している。		入居者様同士が関わり合っていけるように、必要に応じて、職員が間に入り支援するように努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご家族様に連絡をとり、その後の様子をお聞きしている。病院に入院されている場合などは、お見舞いに行くようにしている。		お年賀状をお出ししたり、面会に伺ったりしている。出来るだけ、継続できるよう意識していきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いや希望を言葉で表す事が出来る方だけでなく、思いを表すことが困難な方であっても、顔の表情や今の辛い表情などをくみ取り、一人ひとりの把握に努めている。		入居者様の一人ひとりの思いを把握しこれからも、意向に沿えるように努力していきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や個人を尊重するように努めている。家族との話しの中での情報を得るように心がけている。		ご家族様からも情報を得るなど、出来るだけ多くの情報を収集し、その方らしい生活が送れるように支援していきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活習慣などを把握し、状態観察に努めている。排泄などチェック表の使用により、排便などの確認するなど、把握に努めている。		1日の流れの中で、その方らしい生活ができるように体調の変化や精神的な変化など総合的に把握し、支援できるようにしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	専門職やご家族様と相談しながら行なっている。また、カンファランスを行い、介護計画に反映させている。		必要に応じた介護計画を作成するよう今後も行なっていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しをしているが、退院時や状況の変化にも応じている。ご家族様はもちろんの事、主治医などの指示があった場合反映するよう心掛けている。		現状に応じて見直しを行っているが、状況をしっかりと把握し介護計画作成に、取り組むよう努力したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有する方法として、朝の申し送りや業務日報などで確認して、介護記録に反映するようにしている。		情報の共有・申し送りなど周知徹底していく。 介護記録にもきちんと記録するようにしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者様やご家族様のニーズに応じて訪問診療や訪問歯科診療、ビューティーヘルパーなど利用している。		要望に応じて柔軟に対応出来る様にしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進委員会のメンバーに民生委員の方がおり、家庭菜園などのボランティアも兼ねて、色々とアドバイスを頂いている。 家庭菜園のじゃがいも植えなど、肥料についても教えていただいている。		消防訓練なども行っている。 地域資源の活用を今後も、多く取り入れていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括支援センターの主任ケアマネージャーにアドバイスを頂いたり、必要に応じ連携を取りながら、対応している。		必要に応じ、他のサービス業者への連絡などを行なって行くように努める。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターなど、必要に応じ連絡を密に行きように思ってる。 推進会議にて、オブザーバーとして地域包括支援センターの主任ケアマネージャーと協働している。		今後も、長期的に協働出来る様にしていきたい。 民生委員の方の協力も頂き、多面に渡り関わりを持っているが、これからもお願いしていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院などがあるが、本人の希望やご家族様の希望をお聞きして、受診先を決めている。		昔からのかかりつけの病院など優先しています。 これからも、ニーズに応えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門の先生に診て頂いている。医師との関係についても、入居者様や職員も相談しやすく、良い関係を保持している。		専門の医師の確保については出来ている。また、訪問診療の医師も相談しやすく入居者様の状態を把握している。長期にわたり信頼関係を、保持していきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員は現在、常駐していないが法人内に勤務している為、相談などがいつでも可能である。		健康管理については、必要に応じて今後も相談していきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	退院に向けての取り組みは、退院計画書など病院からの計画書を元に、ご家族様と相談しながら、早期退院に向けて取り組んでいる。また、出来るだけ入院している期間を短くし、認知症が進まないように対応したいと思っている。		早期退院に向けて今後も、積極的に取り組んでいきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末のケアについては、ご家族様と面談するようにしているが、主治医も入って頂いて、面談するようにしている。その結果、職員にも伝え情報を共有するよう努めている。		職員間でケースカンファランスを開催し、情報を共有するように努めてはいるが、日頃からご家族様と信頼関係を持ち、繰り返し話し合っていく必要があると思われる。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医の指示の元、ご家族様と終末についてご相談し、意向をお聞きして可能な範囲内で対応している。現在のところ、看護師がいらない為、常に何か変化があれば、ご家族様に連絡し受診して対応している。		終末期のケアについては、今後の課題でもあると思うが、現在のところ、出来る限り、主治医と相談し指示のもとケアを行なっている。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	なじみの物や使われていた物を持って来て頂いている。以前の暮らしを継続出来る様に心がけている。移動時には、細かい申し送りを行い継続できるように努めている。		御家族よりプライバシーに配慮しつつ情報を収集している。以前の暮らしを継続していけるように配慮していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーについては、十分に注意している。自尊心を傷つけないような声掛けを心掛けている。個人情報についても、漏洩のないよう注意を払っている。</p>	<p>個人情報取り扱いについて研修を行ない、守秘義務の遵守の周知徹底を行なうよう努めているが、さらに、研修を重ねていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>意向や要望を伺うようにし、自己決定を促すようにしている。献立を作るとき等、何にするかを、お聞きしたり、作り方や好きな食べ物などをお聞きしたりしている。</p>	<p>自己決定が出来ない方も、自己表現できるように声掛けを多くし、本人の思いを表現できるよう努めていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個人のペースにあわせ個別ケアするように心がけている。食事の時間が、個人によって遅くなることもあるが、個人のペースを大切にしている。</p>	<p>個人を尊重したケアを行っていきたい。時間の都合や職員の都合ではなく、ゆっくりと過ごせる様に努めていきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の行きたい美容室に行かれることも、以前はあったが、現在は、入居者様の要望が無い為、訪問理美容の方にやって頂いている。髪型などは本人に、お聞きするようにしている。</p>	<p>身だしなみは、理美容だけでなく、衣類などにも気を付けていただくように、職員と一緒に洋服を選んだり、髪の毛をとかすなど行なっているが、身だしなみに興味をもつような声掛けをしていきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立作りを一緒に行なったり、テーブルを拭いて頂いたり、おしぼりを作っていただくなど食事の準備をし手伝って頂くようにしている。</p>	<p>食事は入居者様と同じ物を頂いている。また、出来るだけ家庭的な雰囲気ですぐに食事がいただけるように、努めているが今後も継続し、温かい雰囲気を大切にしていきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>おやつなどは、自分で選ぶことが出来る様に、お菓子の種類がいくつかあれば、好きな物をご自分で、採っていただくようにしている。</p>	<p>嗜好品については、ご本人やご家族様にお聞きして用意できるものはしており、ご本人の要望があった時お出ししている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握するように努めている。定時に排泄介助を行っているが、状況をみて随時、行っている。		自尊心を傷つけないような声かけ・誘導ができるように配慮していきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日については、日曜日以外は毎日、入浴できる体制をとっている。日曜日は、ご家族様の面会が多いため、ご家族様との時間に当て頂いている。		入浴の楽しみ方として、昔ながらの風習を大切にしている。ゆず湯、菖蒲湯などを楽しんでいただくよう工夫していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	良眠できるように、生活のリズムを整えたり、日中も、個別に休息の必要な方には、対応している。		ご本人に合った生活のリズム作りを心がけていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割や楽しみを持ち生活の張りを持てるように努めている。レクリエーションやイベントなど楽しんで頂けるようにしている。家庭菜園の野菜などを時々、見に行き収穫を楽しみにしている。		家庭菜園をおこなっており、収穫している。また、収穫したものでご家族様、近隣の方をお招きしてカレー・パーティーなど行いイベントで楽しんでいる。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、事故防止のため、法人で立替するということが、決められているが、外出した際お金のお支払いなど職員と一緒にするなど支援している。		現金などを使用する機会が少なくても、会話の中でお金のことを忘れないような工夫をしていきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏祭りや近隣の牧場に買い物に行ったり、食事やおやつを食べにでかけている。		外出する機会を多く設けるようにしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご自宅に外泊したい要望があり、ご家族様と相談の上対応させて頂いたケースもあり、要望があれば対応している。		行ってみたい場所の要望が現在は少ないが、あれば対応していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お電話をしたいと希望があった場合などは対応している。また、お手紙が来た時は、お渡しして、届いたお礼のお電話などの支援をしている。		ご家族様と入居者様の手紙のやりとりやお電話でお話する機会をもっと多く持てるように支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会に来られるよう時間制限をしていない。ゆっくり過ごせるよう配慮している。		ご家族様や知人の方もたくさん訪問にきて頂いている。一緒にお茶などを召し上がって、ゆっくりと談話できるように心掛けている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人でも身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束廃止については、力を入れて取り組んでいる。また、内部研修にても再確認し、拘束のないケアに取り組んでいる。		職員は、拘束0を目指す事を意識するように、日頃から取り組んでいると思う。また、どうしても必要な場合が生じた時は、ケースカンファランスを開催し、検討するように心掛けていきたい。現在は、対象者はいらっしやらない。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない工夫は行っている。玄関に鈴をつけ、出入りには注意している。鈴をつけるなどの工夫については、職員間で鈴の音もどのような物にするか、検討してつけている。		外玄関のみオートロック式になっているが、その他の部分には鍵はかかっていない。見守りを強化し、事故防止に努めるよう取り組んでいきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安全確認表を作成し、1時間ごとにチェックしているが、チェック表のみに頼らず見守りを強化して、利用者様の安全確認を行なっている。		日中は、出来るだけリビングに来て頂きコミュニケーションをとるようにしており、利用者様の様子がわかるように配慮しているが、今後も利用者様の安全面を注意していきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険性のある物品に関しては、管理方法を決めてはいる。時間帯にもよるが、職員が近くにいる場合などは必ずしも、鍵をかけるという事はしていない。但し、基本的には、危険性のある物は、鍵をかけて保管する事にしている。		入居者様の状況に応じた管理方法について、具体的に1つ1つ、検討していきたいと思うが、何でもかんでも全てが危険だとは思っていない。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっとを活用している。法人でも事故防止には力を入れて取り組んでいるものの1つ。職員も出来るだけ、ひやりはっとを提出し、毎月分析している。		安全対策委員会を設けて、取り組んでいる。ひやりはっと報告書は、職員が共有できるように、目を通して捺印するようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法など消防署にて研修があった場合、出席している。内部研修にて報告して、情報の共有に努めている。また、体調不良時の対応マニュアルがあり、参考になっている。		夜間帯の救急対応については、マニュアルがあり夜間緊急受診した場合も、サポート要員が対応するため、安心して、受診に付き添うことができる。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常用の食料、備品は常備している。消火器、避難路についても定期的に設備点検している。非難訓練も自主訓練を行っている。		地域との非難訓練などは、今年の下期位から、自治会と一緒に取り組んでいく予定になっている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランの面談時などにお話させていただいたり、お電話などでも、必要に応じてご連絡させて頂いている。		ご家族様と連絡を密にして、リスクを最小限に止められるようにしていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化の早期発見のため、1日2回のバイタル測定を行っている。また、数値のみに頼らず、日頃より様子観察を行い、少しでも気が付いた際には、他職員に報告し情報を共有すると共に、ご家族への連絡を行うようにしている。受診が必要な場合、速やかに対応している。		入居者様の状態には常に注意して様子観察するように努めているが、入居者様の身体機能に伴い、早期発見と迅速な対応が必要と思われるため、日頃のバイタルチェックを欠かさないようにしていきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表などにて確認するようにしている。また、処方内容をファイルしており、いつでも見て確認することが可能である。		服薬に関する研修を行ったことがあるが、開催数が少ないため、定期的に、情報を共有するために、今後も開催していきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤を出来るだけ使用せず、食事やおやつなどで便秘解消出来る様にしている。毎朝、ヨーグルトやヤクルトを付けるようにしている。下剤の使用については、医師に相談し、指示のもとに行っている。また、下剤の種類についても、ご本人の状態にあわせて指示して頂いている。		身体機能の低下により、便秘になりやすく自然排便が困難になっているため、食材やメニューで工夫するようにしていきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアについては、毎食後に行っている。また、義歯洗浄も行っており、歯磨きが難しい入居者様には、口腔清拭をしている。毎週、訪問歯科診療があり、医師に相談しながらケアを行っている。		清潔の保持に努めて行きたい。職員が口腔ケアの重要性を認識する為に、研修に参加し報告会を行い、情報を共有している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量などのチェック表を作成し、一人一人を把握している。また、1日の水分トータルなども、記入している。		栄養計算は業者のメニューをお願いしている為、1日1食の分は、栄養計算ができています。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルがあり、法人でも研修を行ったり、区役所主催の研修にも参加し、内部研修にて発表するなど共有している。		マニュアルに沿って実施している。また、職員が手洗い、うがいのポスターを作成し、励行している。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材については、十分に注意している。業者に発注した場合、納品時には確認している。また、食器や調理器具についても毎日チェック表を用いて消毒している。食材の賞味期限のチェックも行っている。		食器や台所、調理器具などの衛生管理には充分注意していきたい。消毒などに関しては、マニュアル化しており、今後も取り組んでいきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の周りには、季節のお花などガーデニングして、グループホームらしい生活感のある雰囲気作りをしている。		玄関周りは、明るいイメージを心がけている。玄関ドアも2枚扉になっているが、自動ドアになっているため、出入りしやすい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホットできる空間や場所をつくるように心がけている。また、場所だけでなく、観葉植物や季節の花などを飾り、落ち着いた雰囲気になるように、意識しています。また、音楽などを流し穏やかな生活ができるように工夫しています。		季節感を取り入れるように心がけている。出来るだけカレンダーなども自然の風景画などのものを飾るようにしている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの周りに、いつでも自由に座れるように、椅子とテーブル設置しており、フロアを歩きながら時々休憩出来る様に工夫している。また、喫煙場所を設けて他の利用者に配慮しているが、現在は、喫煙する方は、いらっしゃらない。		ホットできる場所の確保は絶対的に、必要と思っているグループでのコミュニケーション作りも重要ではあるが、一人での空間は精神的安定を図る為、工夫していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使い慣れたタンスや椅子など、身の回りの物で、ご本人にとって使いやすいものがあれば、持参して頂いており、ご家族の写真なども送っていただいたものなどは、居室に飾るように心掛けている。また、ベッドやお布団なども、施設では用意はしてあるが、ご自分の物を使用されている入居者様もいらっしゃる。		入居者様にとって使い慣れたもの、なじみのある物は、安らぎが得られ、安心して生活が継続されるものですので、大切な事と考えており、ご家族様とご本人の意思を尊重するよう心掛けている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は、午後2時頃に、必ず窓を開けるようにしている。時間を決めているのは、忘れないように意識する為に決めている。また、温度計を設置し、温度には注意している。湿度についても、特に冬は、乾燥に注意し湿度を60%に保持するよう、職員間で意識している。		入居者様の座る位置などは、空調の吹き出し口などの近くは出来るだけ避けてはいるが、やむを得ず、近くに座る時などは、注意して状況を把握するよう今後も努めて行きたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活ができるように、トイレなどのスペースを広くとり、手すりも上下に動くようになっている。また、お台所も、キッチンカウンターになっている為、職員と入居者様が対話をしながら、調理が出来る様になっている。不安を取り除くことができる環境であると言える。		身体機能に応じた設備や備品を整えるようにしたいと思う。また、危険なものがないように配慮していった。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや浴室、また居室などの表示をわかりやすく表示し混乱を出来るだけ避けるように心掛けている。		個人の能力に応じ、わかりやすく表示しているが、残存機能を充分活かし、混乱しない工夫が必要と思っている。
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭やテラスにて、夏祭りやカレーパーティーなどイベントの時に)利用したり、普段もお天気の良いときには、おやつをいただいたりしています。		今後もテラスや中庭をイベントなどに利用し、ご家族様や、近隣の方などをお招きしてコミュニケーションの場所にしていきたいと思っています。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

環境整備面では、いつも季節のお花が飾ってあり、季節感を感じられるようにしています。お花も家庭菜園で咲いたお花であったり、お花屋で購入したものなど様々ですが、自然のもので本物を取り入れていきたいと思っています。

また、家庭菜園で収穫した野菜を利用して、ご家族様や近隣の方にお声をかけ、テラスにてカレーパーティーを行ったりしております。

常に、ライフコミュニケーションがモットーとしていますのは、「ご家族様と共に楽しむ」ということです。

気軽に、いつでもご家族様が、お越し頂けるような温かいおもてなしを心掛けております。また、介護教室や運営推進会議などをきっかけに、近隣の方などが身近に感じられ、温かく見守っていただいていることを実感しています。今後も、地域の方に支えていただきながら入居者様やご家族様が安心できるグループホーム作りを目指していきたいと思っています。